

(土屋誠氏)

おはようございます。ご紹介いただきました、土屋でございます。ここにお集まりの皆さんの顔を拝見しますと、私よりは若めに感じておりますので、少し昔のことを振り返るのもいいかと思ひまして、予備的な情報として、今までのまとめをしてみました。サンゴが白くなる一番有名な現象は1998年に起こったわけですが、その周辺にどんなことが起こったのか、そして私たちが何をしてきたのか、さらに私たちが何をしなければいけないかについて、今日改めて議論ができるということで、とても素晴らしい機会だと思っております。

1993年にマイアミ大学のグリーンさんがこんなレポートを出しております。1870年から、1990年まで、かなり過去の事柄ですが、どんなことがサンゴ礁で起こっていたかをグラフにまとめております。それによりますと、白化現象は1980年前後から頻繁に観測されるようになって、それ以前には全く見られないというレポートになっておりました。オニヒトデは色々なところで発生しておりますし、それ以外に、サンゴが大量に変死したという記録も過去にはあったようですが、白化についてはごく近年、よく見られるようになったということは、このような情報からも明らかです。

沖縄のサンゴ礁ではオニヒトデは1970年代から大発生が始まりまして、色々なことが起こってきたことは皆様、御承知の通りです。赤土が流れ込んできてサンゴ礁を攪乱してしまうということも頻繁に起こりました。サンゴに赤土が堆積して、死亡してしまう、というレポートも様々ございます。1998年の白化の直前にICRI(国際サンゴ礁イニシアチブ)東アジア海地域会合がコンベンションセンターで開催されました。そこで、沖縄宣言が提言されて、サンゴ礁における統合的沿岸域管理を推進するための行動をしなければならぬ、と宣言しました。私たちはそれを進めてきたでしょうか、と今反省しております。そして98年にサンゴ礁の大規模な白化が起こり、皆様が御存知のような写真が至るところで見られるようになりました。その時、95%以上のサンゴが死滅した。そして色々な報告会で、議論が行われました。日本サンゴ礁学会はこの時第1回だったんですが(第1回といっても最初の集まりではなくて、その前の年に創設のために記念大会がありますので、実質上の第2回大会です)そこで緊急討論をいたしまして、既にプログラムができ上がっていたにも関わらず、11件の報告をそのプログラムに緊急に追加して、白化問題について討議をしました。そして、白化問題の特別委員会を立てて、そのあとの対策に関し色々な意見交換を続けており、現在では、この委員会が「サンゴ礁保全委員会」と名前を変えまして、様々な活動しております。新聞等では、このように色々言われていました。対策が急務である、急務である、と言われつつ、何をしてきたかは、私自身も大いに反省をしなければいけないと思っていますところです。2004年に、国際サンゴ礁シンポジウムを沖縄で開催した折、コンベンションセンターを満員にして開催いたしましたけれども、その時にも沖縄宣言を打ち出しまして、ここにありますような、持続的な事業ができるようにしよう、海洋保護区を増設しよう、土地利用をうまくしよう、あるいはサンゴ礁

再生のための技術を開発しよう、という宣言をしましたが、どれだけ実現しているか、私自身反省してみて、ちょっとおぼつかないところがあります。そして2007年の11月には石西礁湖の全体構想が策定されました。あるいは、西表国立公園に石垣島が、新たに西表石垣国立公園ができ上がりました。その時、白化現象などの問題が多いので、二酸化炭素の抑制をしなければいけない、あるいは、サンゴ礁の管理をしっかりしようよ、という話を折あるごとにしてまいりました。ただ、どうも私たちは、反省をうまくしていない。いっぱい活動をしていたのであれば、その成果が表れて然るべきです。でも、こう繰り返して白化が起こる、あるいはサンゴ礁が攪乱される、ということは、私たちの活動が、何か足りないのではないか、と思ひまして、こんなスライドを用意いたしました。今日の御発表は、ごく最近の様々なことに関しまして、皆様から色々お教えいただくことができるわけですが、過去のことも踏まえて、今何が起きているのかを確認し、今後何をすべきかということをご一緒に議論できれば、いい形の結論になるのではないかと思います。特に、この今後のアクションについて、早急にしなければいけないこと、あるいは長期的にサンゴ礁を眺めながら、あるいは地球を眺めながらしなければいけないことが議論できれば、いい集まりになるのではないかと考えております。皆様方の御協力をお願いいたしまして、最初の挨拶にいたします。どうぞよろしくお願いいたします。